

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070600558		
法人名	株式会社 エルダ サービス		
事業所名	グループホーム 牧水の丘		
所在地 (電話番号)	北九州市八幡東区東鉄町5-20 (電話) 093-652-6688		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年11月26日

### 【情報提供票より】(平成21年10月10日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造2階建て	
	2階建ての	1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 20,000円
敷金	80,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1667 円		

#### (4) 利用者の概要 (10月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.7 歳	最低 73 歳	最高 94 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック・新日鉄八幡記念病院
---------	------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑多く、閑静な周辺環境の中に、昭和10年築の日本家屋を改築した、グループホーム「牧水の丘」はある。広い敷地内にある緑あふれる庭園や、趣深い建物外観、銅製の手洗いやねじ式の鍵が残る室内空間等、古きよき時代の名残を残す生活環境の中で、入居者一人ひとりの日々の暮らしが、その人らしく、楽しく、穏やかに過ごせるよう支援することを大切にしている。賑やかな会話や明るい笑い声が聞こえてくる「牧水の丘」では、認知症への多面的なアプローチが行なわれており、日々の詳細な記録からもその姿勢を窺い知る事が出来る。法人として多様な福祉サービスを展開しており、その連携を活かした職員育成・サービスの向上への充実した取り組みが行なわれており、また積極的な情報発信により、地域における福祉拠点としての役割も担っているグループホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題として、看護師との連携・記録の充実が求められており、看護記録の充実とその評価に組み込み、介護計画作成にも活かされている。事業所・訪問看護師・医師との連携の充実があり、健康管理・服薬等についての相談が円滑に行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングで職員に意見を求めており、その意見を基に自己評価を完成させている。その時だけでなく、年間を通じて取り組み
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2か月に1回の定例で開催されている。外部評価の報告・地域活動・町内安全パトロール・防災訓練・ホームの近況報告(健康管理・行事・食材について・インフルエンザ対策・家族会等)など幅広い内容で会議が行われている。事例検討なども行われており、参加者が相互に意見交換することができる有意義な時間となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	玄関に投書箱を設置している。苦情相談窓口及び担当者を設置し、また公的機関の相談窓口についても案内している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域行事・活動に積極的に参加している。日々の暮らしの中でも、自然な形で交流があり、地域に根付いた活動が行われている。地域福祉の拠点として情報発信等についても取り組んでおり、今後の展開・充実が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人としての「利用者が心から満足できる日本一の介護サービスを提供します」という理念に基づき、ホームとして地域との関わりを持ちながら自分らしく生活できるように支援することを、独自の理念として掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を目に付きやすい場所に掲示し、日々のミーティングや定例会において理念を確認し、唱和を行っている。運営推進会議・家族会・地域活動参加時等においても、家族や地域の方々、関係者に説明し理解と浸透を図っている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入しており、地域行事・活動に積極的に参加している。日々の暮らしの中でも、自然な形での交流があり、地域に根付いた活動が行われている。地域福祉の拠点として情報発信等についても取り組んでおり、今後の展開・充実が期待される。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価結果については、運営推進会議等において報告を行っている。課題事項については、一つ一つ改善に向けた取り組みが行なわれている。前回の課題として、医療連携体制における看護師の役割の明確化・介護記録との連動性についての指摘があり、記録の充実等に具体的な取り組みが確認できる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2か月に1回の定例で開催されている。外部評価の報告・地域活動・町内安全パトロール・防災訓練・ホームの近況報告(健康管理・行事・食材について・インフルエンザ対策・家族会等)など幅広い内容で会議が行われている。事例検討なども行われており、参加者が相互に意見交換することができる有意義な時間となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	1ヶ月に2回、介護相談員の来訪を受けている。家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託しており、行政との協働が図られている。地域包括支援センターや市町村担当者との連携により、情報を共有しサービスの向上につなげている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、研修等に参加し、伝達研修により職員全員への周知を図っている。法人として多様な福祉サービスを展開しており、その連携の中で様々な情報を共有しており、管理者も制度に関する知識が深い。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	開設以来、毎月担当職員による手紙にて、日々の暮らしの状況や健康状態、金銭管理等について報告しており、今年からは記録としても残していくよう取り組んでいる。家族の来訪時にも詳しく状況を説明するよう努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に投書箱を設置している。苦情相談窓口及び担当者を設置し、また公的機関の相談窓口についても案内している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	一人ひとりのケアの基本となるものを共有し、やむを得ず離職や異動が発生した場合にも、ベテラン職員によるフォローや引継ぎ期間を十分に設け、入居者の方々への影響が最小限となるように努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。ミーティングや定例会、個人面談等において職員の意見を聞き取り、個々の能力が発揮できるよう支援している。資格取得に関しても、法人としての研修等を行い、支援する体制が構築されている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	充実した研修体制の中で、人権研修・高齢者虐待防止・身体拘束等の研修が行われている。また入居者・職員のみならず、実習に来ている外国籍の方々への対応についても、無意識の中での差別とならないよう、配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人として、年間研修計画が作成されており、ホームでの研修とともに充実した体制がある。今後は参加者の確認や伝達の確認ができるよう、記録の充実にも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人内のグループホームとの連携・交流が活発に行われている。他法人の事業所とも、情報交換が行われており、少しずつネットワークが広がっている。今後の活動の充実に向けて、リーダーシップを発揮することにも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族のもとへ訪問し、顔なじみの関係づくりや情報の収集を行っている。信頼関係を築きながらニーズを把握し、できるだけ不安なく、安心して入居できるような環境づくりを行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で時間を共有し、何気ない会話や共に行動する中で、お互いを思いやり支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人・家族や関係者の協力も得ながら、生活歴やライフスタイル等の把握に努めている。日常的な会話や表情・行動等からも思いや意向の把握に努め、職員間で共有しながら、介護計画作成にもつなげている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を確認し、関係者とケアカンファレンスを行い、意見を集約しながら介護計画を作成している。介護記録には、暮らしの現状・心身の状況・サービスの実施状況等が詳細に記載されており、精神的な状況についても理解しやすい記録となっている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的な見直しを行っている。身体状況などの変化がある場合にはその都度見直しが行われている。毎月モニタリング・ケアカンファレンスを実施し、詳細な介護記録を活かして、確認が行なわれている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族の状況に応じて、受診介助に柔軟な対応をしている。また希望に応じて、冠婚葬祭等、特別の外出にも対応している。法人として多様な福祉サービス事業を展開しており、その連携をサービスの向上につなげている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	医療連携体制の中、事業所・訪問看護師・医師の連携が充実しており、健康面や服薬等についての相談が円滑に行なわれている。かかりつけ医は北九州市「ものわすれ外来」事業協力医療機関でもあり、認知症の専門医の存在は、入居者・家族の安心につながっている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	終末期ケアの方針を示し、家族の同意を得ている。家族・かかりつけ医との話し合いを重ね、関係者との連携を図りながら方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々のケアの場面において、さりげない言葉掛けや対応を行い、入居者の方々を傷つけることのないよう努めている。記録等個人情報についても、2階事務所にて保管・管理が行われており、取り扱いには充分配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。起床・就寝時間や食事の時間等、その日の状況に柔軟に対応している。その日、その時の希望を大切に受け止め、出来る限り対応するよう努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理準備や後片付け等にて、入居者個々の力を発揮してもらっている。調理の得意な職員の活躍があり、個々の状況や嗜好にあわせた柔軟な対応がなされている。毎月外食を楽しみ、またおやつの中には入居者・職員の賑やかな会話の中、「食」を楽しむ姿があった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的な入浴日の設定はあるが、希望や状況に応じて柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	字の得意な方には御品書きを書いてもらい、生け花を得意とする方には季節の花を活けてもらうなど、得意分野や趣味を活かせる場面づくりを支援している。特別な行事等だけではなく、普通の生活の中で、庭に出てみたり、歌を歌ってみたりすることで、気分転換を図っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課のように広い庭やホーム周辺への散歩にでかけており、近隣にある同法人の「牧水の丘」に立ち寄るなど、日常的な交流がある。街中の利便性と豊かな自然環境を併せもつ恵まれた周辺環境の中、個別の買い物やドライブ等、外出する機会は多い。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中、玄関やデッキへの窓などを開放しており、見守りや声掛けにより安全面に配慮しながら、自由な暮らしを支えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回の定期的な避難訓練が実施されている。11月には運営推進会議と同日に行い、家族・地域の方々・行政職員にも参加してもらえるよう計画している。災害時には近接する同法人の「牧水の丘」との連携体制があり、非常食の準備・保管も法人として定めている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人の栄養士による、バランス等に配慮された献立が作成されている。食事・水分摂取量を、個別に確認・記録し、健康管理につなげている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## グループホーム 牧水の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	昭和10年築の民家を改築している。銅製の手洗いやねじ式の鍵など、各所に大正・昭和の名残を残しており、懐かしい雰囲気にも包まれている。中庭に面した廊下にはソファ・テーブルが配置されており、四季折々の変化をみせる花木を眺めながら、くつろげる場所となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	日本家屋を改築しており、居間を中心として様々な間取りの居室がある。自宅から、箆笥・ベッド・仏壇等が持ち込まれ、これまでの暮らしの状況が伝わるような、その人らしい部屋づくりとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			